

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人善友会
(ユニット名)	グループホームさざんか
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市小長井町小川原浦654
記入者名 (管理者)	雨宮 真生
記入日	平成 20年 1月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくことを含めて、「暮らしを楽しむ」という理念を掲げている。	○	地域密着型サービスの役割を考えながら、今の理念を追求していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に職員へのホームの運営理念や方針について具体的に話すように努めている。	○	さらに会議等で理念を掘り下げて話し合い、具体的なケアに活かしていくよう努めていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	家族や地域に対して、もっと「事業所の果たしている役割」を伝えていく。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者のご近所の方が遊びに来てくださっている。	○	来てもらうことが主になっており、こちらから利用者とともに出かけていく機会を増やしていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の文化祭や体育祭・夏祭り等に利用者とともに参加している。	○	地域の保育園・学校との交流を深めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所での成果を地域に伝える場を設けていない。	○	介護予防教室の開催等、地域住民を対象に認知症の啓発に努めていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて全職員に伝え、全員で取り組むようにしている。	○	職員が評価に前向きに取り組めるように、評価の意義や活かし方をわかりやすく伝えていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、一度開催しているが、顔見せ・茶話会の域を脱していない。	○	評価の取り組み等をモニターしてもらおう等、運営推進会議と評価を結びつけ、ホームの質の改善に努めていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口に対して、事業所のケアサービスの取り組み方等を折に触れて伝えている。	○	今後も関係作りを積極的に行い、協働関係を継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が一人で対応するため、他の職員は理解しておらず、そのため必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。	○	「成年後見制度」や「地域福祉権利擁護事業」について、職員全体で学んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けて、関連新聞記事を回覧する等取り組んでいる。	○	折に触れて高齢者虐待防止関連法の理解を図り、虐待の徹底防止・発見時の対応を周知徹底していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分時間をとって説明し、事業所の方針や利用者・家族の権利と義務等について説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者や家族にとってわかりやすいか、不安に感じていないかを配慮していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけ、その時々の利用者の意見等を話し合うようにしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が気兼ねなく意見や苦情を出しやすいように働きかけをしていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月管理者が家族便りにて現在の報告をし、他に個別に電話で様子を伝えるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の状況を折に触れて家族に伝えていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には手紙や面会時等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるように留意している。出された意見・要望等は会議で話し合い、反映させている。</p>	<p>○</p> <p>安心して意見や要望・苦情を言ってもらえるように、家族との交流を深め信頼関係を築いていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や個別の面談で職員の意見・要望等を聞くように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>職員の意見を反映させ、働く意欲の向上・質の確保につなげていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応できるように、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>○</p> <p>利用者と職員の連続した関わりを大切にしていく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者への信頼関係を築くためにもなじみの職員が対応することが重要と考えている。</p>	<p>○</p> <p>異動や離職がやむを得ない場合も、引き継ぎの期間を十分にとり、スムーズに移行できるようにしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内での研修を紹介し受講してもらう機会を設けている。	○ 外部研修が不十分であり、外部研修への派遣を積極的に行っていく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に加入しておらず、同業者との交流が十分とは言えない。	○ 県や市のグループホーム協議会に加入し、他のグループホームの見学・交流を促進していく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。	○ 十分に話を聞いて職員がストレスを抱えないように配慮していく。ホーム内だけでなく、地域の福祉関係者等との交流等でストレスを緩和する機会を拡げていく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	現場に来たり、利用者を診察したりして、現場の状況を把握するようにしている。	○ 職員の資格取得に向けた支援を充実して、職員が向上心を持って意欲的に働けるようにしていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	サービスの利用の相談があった際は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いを把握するようにし、職員が本人に受け入れられるような関係作りに配慮している。	○ 今後も本人から十分に話を聴き、本人を職員全体で受けとめることに努めて行く。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に検討している。	○ これまでの家族の苦労や状況など、これまでの経緯について十分に話を聴き、信頼関係を築いていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行ってい る。	○	当ホームだけで抱え込まず、必要に応じて地域の ケアマネジャーと連携して対応していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	本人や家族にホームを見学してもらっている。急な利用の際は、家族 や馴染みの方に来てもらうなど安心してもらえるよう努めている。	○	見学だけでなく、スタッフが自宅に出向くなどして、 本人が馴染めるように配慮していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と職員が、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう努めて いる。	○	利用者から教えてもらう場面が多くもてるようにセッ ティングや声かけに配慮していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	共に本人を支える姿勢で、一緒に考えていけるように人間関係を目指 している。	○	家族と情報交換を密に行い、日々の暮らしの出来 事や気づきの情報共有に努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	家族や本人の思いや状況を考慮しながら、外出や外泊で家族と一緒 に進める等、より良い関係の継続に努めている。	○	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け とめて、両者の思いが結びつくように心掛けていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	本人をとりまく人や支えてきた人たちとの関係が途切れないように配慮 している。	○	ホームに訪問してもらうことが主になっているので、 近所の方に本人が出かけていく支援を行っていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	毎日の食事や団欒の中で、職員も一緒に多くの会話を持つようにした り、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるように働きか けている。	○	利用者は、心身の状態や気分・感情で日々時々変 化することもあることを理解し、注意深く見守るよう にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行っている。	○	サービスの利用が終了された方にも、遊びに来てもらえるように行事などの案内を心がける。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから真意を汲み取るように努めている。	○	何が本人にとって最良なのかを、家族を交えて検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身のお話や、家族・知人等の訪問時など少しずつ把握に努めている。	○	プライバシーへの配慮を忘れないように留意し、家族等に十分説明して情報を得る。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、行動やちょっとした動作から感じ取り、その人全体の把握に努めている。	○	できないことよりできることに着目することを心掛けていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員全体で意見交換やカンファレンスを行っている。	○	身体的なことや介護上の問題点が多くなりがちで、精神的社会的な問題点にも着目していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や本人の要望を取り入れつつ、期間前に見直し、状態が変化した際はその都度検討見直しをしている。	○	同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・排泄等身体的状況や日々の生活状況を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしている。	○	専門用語等の表記・使い方を研修し、客観的で正確・簡潔な記録を心掛けていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な支援を柔軟に対応している。	○	医療連携体制を強化して、健康管理を通じて生活を継続して楽しめるように努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との連携が不十分である。意見交換する機会を持っていない。	○	警察・消防・民生委員等との意見交換する機会を設け、利用者が安心して暮らしていけるように取り組んでいく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、通所リハを利用できるように支援している。	○	必要に応じて、外部のケアマネジャーとも連携をとるようにしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今まで本人の意向や必要性が無かったため、地域包括支援センターとの協働がほとんどなされていなかった。	○	今後の運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加を依頼し、関係強化のきっかけにしていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、利用前からのかかりつけ医の医療も受けられるようになっている。協力医以外の他科受診は原則家族同行としているが、状況に応じて職員が代行するようしており、契約時に説明し、同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医が認知症の相談医であり、認知症についての指示や助言をもらっている。	○	必要に応じて、専門の精神科や脳神経外科にも相談して適切な支援につなげていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人の母体が協力医で、すぐ隣にあり、24時間いつでも内線で連絡でき、医療面での対応を依頼できる体制をとっている。	○	協力医と連携を密にして、利用者の健康管理・緊急時の対応に万全を期していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。家族とも情報交換しながら、回復状況に応じて退院支援に結び付けている。	○	退院支援が速やかにできるようにしていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、事業所が対応し得ることを説明し、本人や家族・協力医とも話し合って意志を確認している。	○	早い段階から、重度化したときのことを本人・家族と十分に話し合っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。急変時には、すぐ対応してもらえるように協力医とも密に連携を図っている。	○	チームの連携、職員の力量を高め、終末期の支援体制を整備していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活環境・支援の内容・注意が必要な点について情報提供し、連携に努めている。	○	リロケーションダメージが最小となるよう、本人に関わる関係者の協力を得て取り組んでいく、

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>	○	トイレ誘導などで、目立たずさりげない声かけや対応に十分な配慮をしていく。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者に合わせて声をかけ、飲み物やしたいこと、する・しない等、本人が決める場面を作っている。</p>	○	職員が決めたことの押し付けにならないように配慮している。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>基本的な一日の流れはあるが、杓子定規な過ごし方はしていない。その日、その時の体調や気持ちを考慮している。</p>	○	利用者のペースに沿って、支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めている。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて支援している。理・美容院は、本人や家族の希望に合わせて利用してもらっている。</p>	○	利用者におしゃれの意識を高めてもらい、生き生きとした生活を楽しんでいただく支援をしていく。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>メニューは利用者の希望を聞きながら作成している。下ごしらえや片づけ等も利用者と一緒に、職員と利用者が同じテーブルで話をしながら楽しく食事をしている。</p>	○	食事を一日の大切な活動の一つととらえ、楽しい雰囲気作りを努めていく。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>おやつは好きな物を用意して楽しめるように支援している。お酒は原則として飲む機会を設けていない。</p>	○	お酒も含めて、できるだけ本人の嗜好に合わせて支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、リハビリパンツや尿取りパットを活用しつつ、できるだけトイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。	○	失敗したときに本人が気にされないように配慮をしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	火曜日と土曜日に入浴日を設定している。	○	利用者の希望に合わせて、柔軟に対応していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく昼間の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。それぞれのその日の体調や希望を考慮して、休息がとれるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	マンネリ化しないように、工夫していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かって事業者が管理しており、自分で支払う機会を設けていない。	○	事業者が管理しつつ、買い物の際は支払いは利用者自身でしていただけるようにその場で手渡す等の工夫をしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分や希望に応じて、時々散歩や買い物・ドライブ等に出かけている。	○	季節を肌で感じてもらえるよう、日常的に外出の支援を行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の遠くへの外出は、家族に相談し家族に連れて行っていただいている。	○	利用者の思いが出されたときは、実現するための方策を職員・家族で検討して支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるように支援している。電話はコードレスホンを使い、居室でやりとりできるようにしている。	○	希望されたときだけでなく、こちらからさりげなく電話や手紙を促していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも気軽に来やすい雰囲気作りに努めている。訪問時間も定めておらず、いつでも都合のいい時間帯に来ていただけるようにしている。	○	訪問者に気兼ねなく過ごしてもらえるように、工夫していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束の講習を行い、職員の共有認識を図っている。	○	高齢者の権利擁護を職員に折に触れて啓発していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな時は、止めようとせずにさりげなく声をかけて一緒についていくなど、安全を考慮して鍵をかけないようにしている。	○	近所の人にも理解を求め、見守りや声かけ・連絡をしてもらえるように関係を築いていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で業務を行い、さりげなく全員の状況を把握するようにしている。夜間は、1時間ごとに様子を確認し、休憩も居室が見渡せる量の間を活用している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態から予測される危険を検討し、事故を予防するように取り組んでいる。	○	転倒、窒息、行方不明等の事故防止の方法を研修し、共有していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の講習を実施して技術の習得に努めているが、母体の協力医に頼っている面がある。	○	全ての職員が対応できるように、定期的に講習を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。	○	地域の協力体制について、自治会にお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけたりしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な活動や外出によりリスクが高くなるものの、自由な暮らしの大切さを説明し、理解を得られるように努めている。	○	今後も利用者のリスクを把握して、対応していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し、食欲や顔色・様子に変化がある際には、バイタルチェックを行い、状況に応じて協力医に連絡して指示を仰ぐ。変化時の記録をつけている。	○	些細な変化を見落とさないよう注意して業務にあたる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬の名前・効能・用法・用量・副作用を把握できるようにしている。	○	代表的な物や、新しい薬の勉強の機会を設け、正しい知識を持って扱えるように研修をする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品を取り入れたり、適度な運動を働きかけたりして自然排便を促すようにしている。	○	繊維質の料理でも咀嚼しやすい物を研究し、おいしく召し上がっていただく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。夕食後は義歯の洗浄も行っている。	○	口腔ケアの重要性を研修し、肺炎を予防する技術を身につけるように指導する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。	○	栄養士のアドバイスも活用して、バランスの取れた献立を工夫していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	主な感染症について、全職員で学習して予防・対策に努めている。同意を得た上で利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ペーパータオルを使用している。	○	事業所で起こりえる感染症について、細かいマニュアルを作成して予防・対策に万全を期す。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は頻繁に漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫も点検・掃除し、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。	○	O-157など食中毒に十分注意して、調理に当たる。行政からの注意喚起情報は、その都度職員に周知徹底していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を生けたり、玄関先にプランターを置いたりして、季節感を出している。	○	お客様がくつろぎやすいように、環境を整備していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、料理の出来上がる匂い、音楽、おはぎ作りや菖蒲湯など、五感や季節感を刺激するように努めている。	○	利用者と一緒に考えて飾り付けを行って、自分の家という意識を高めてもらえるようにしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広場や廊下にソファーや長椅子を設置して、居心地の良い空間を作っている。	○	絵画や花・テーブルも用意して、ゆったりした環境整備に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の馴染みの家具や品物を自由に持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレや居室は、消臭剤・芳香剤を使用して悪臭が出ない工夫をしている。外気との温度差があるときは、温度計と利用者の様子を見ながら調節している。	○	冷暖房に頼り過ぎないように留意する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、ベッドを使用せず畳を敷いてマットや布団だけにして、いざり移動がしやすいように環境整備している。	○	他にも利用者の状態に合わせて、居住環境が適しているかを随時見直し、安全確保と自立に配慮をしていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人が居室を認識できるよう、表札を大きく表示するなど、わかりやすいように努めている。	○	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭やプランターに花や野菜を栽培し、利用者が日常的に楽しめるような環境作りに努めている。	○	玄関先にベンチ等を設置して、気軽に外で憩うことができるようにしていく。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)